

活動テーマ **地域と子どもと認知症高齢者の共存をめざして**

京都府 **社会福祉法人 宇治明星園**

〒611-0022 宇治市白川鍋倉山22-10 TEL. 0774-21-6055 FAX. 0774-21-7215

取り組み内容のポイント 認知症への理解を深めることと、子どもたちにわかりやすく楽しくをモットーに内容を考える。
認知症サポート養成講座を事前学習としてグループホームのご入居者との対応を充実したものにする。

活動内容

- **活動開始年**
平成20(2008)年3月
- **活動の対象者**
伊勢田小学校4年生全クラスの児童
- **活動の頻度・時間**
認知症サポーター養成講座は年1回、授業の中に組み込んでもらうため授業時間45分
認知症高齢者と小学4年生の交流会は年1～2回、授業の中に組み込んでもらうため授業時間45分

取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無 記載していない
- ②事業報告・計画への記載 記載している

取り組みを実施している施設の概要

- 【施設名】**
- ・グループホームナイスライフいせだ
 - ・グループホームなごみの里伊勢田
- 【施設種別及び利用定員】**
- ・認知症対応型共同生活介護
 - ・ナイスライフ……………定員9名
 - ・なごみの里……………定員6名

法人設立年

昭和49(1974)年

法人実施事業

- ①経営施設数合計：21施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：
 - ・養護老人ホーム 1か所
 - ・保育所 1か所
 - ・特別養護老人ホーム 2か所
 - ・ケアハウス 1か所
 - ・地域密着型特別養護老人ホーム 1か所
 - ・認知症対応型共同生活介護 2か所
 - ・通所介護 3か所
 - ・短期入所生活介護 4か所
 - ・訪問介護 2か所
 - ・居宅介護支援 3か所
 - ・地域包括支援センター 1か所
 - ・地域包括支援センター支所 1か所

法人の理念・経営方針

- 設立精神** 「地域に開かれた 地域に根ざした 地域住民に支えられた施設づくり」
- 経営理念** 「肩肘はらず 夢と希望をもって 地域に生きる」
- 運営理念** 「いつも主役でお客様がそこにいらっしゃる」
「真面目に、誠実に働き、清潔で風通しのいい明星園」
「地球にやさしい明星園」

活動実施の背景、実施にいたった理由

活動実施の背景としては、平成19(2007)年3月に伊勢田小学校4年生の児童が、自分たちが育てた水仙を地域の中にあるグループホームのご入居者にプレゼントしたいという申し出があり、グループホームへ児童たちが訪問して水仙を寄贈していただいた。これをきっかけに翌年以降も毎年4年生全クラスとの交流会を開催してきた。グループホームに訪問してもらったり、小学校に招待してもらったりしながら交流を深めてきた。

認知症サポーター養成講座については、地域住民に向けた認知症の研修をしたいという思いと、平成24(2012)年にグループホーム職員3名が認知症キャラバンメイトの養成研修を終えたので、せっかくの資格を活かしたいという2つの思い、また認知症介護実践者研修の指導者がグループホームへ異動になったこともあった。

対象者を小学生にしたのは、伊勢田小学校4年生児童との交流も6年目となり、より良い交流にしていくには…と考えた時に、交流会の前に児童に認知症への学習をしてもらうことに意味があると思ったので、小学校の先生に認知症サポーター養成講座の話をしたところ、「グループホームとの交流会の前には認知症がわかる簡単なビデオで学習はしていたが、そんなことをしてもらえんならぜひ!!」と

いうお返事だった。

平成25(2013)年から認知症サポーター養成講座を開催することとなり、そしてその講座が事前学習となり、その後実際にグループホームのご入居者である認知症高齢者との交流をするという流れが確立した。

実施内容

職員皆で意見交換した結果、認知症についてテキストを使っただけの簡単な講話と、対象者が小学4年生ということで、できるだけわかりやすく、そして子どもたちが楽しめるようにと寸劇をするのが一番いいだろうということになり、職員が認知症高齢者と児童の役になって、平成25(2013)年は認知症の症状や認知症の人と接する時の心得など、平成26(2014)年は講話の内容として、脳の図を用いて若年と認知症の脳の違いや記憶の仕組みについてわかりやすく説明し、それに加えて児童を2役にして良い例と悪い例を演じ、どちらが認知症の人への適切な対応かということを児童たちに考えてもらう場面を作り出した。

交流会では、子どもたちがリコーダーや歌の発表をしてくれたり、小グループになって手遊びやゲーム、風船バレーなど子どもたちが考えてきてくれたものをご入居者と一緒に楽しみ、ふれあう機会となっている。

活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

認知症サポーター養成講座では、子どもたちが真剣に聞いてくれていたこと、そして寸劇の後は質疑応答をするが、職員全員が身につけていたオレンジリングを見つけて、「それは何ですか?」と。また「認知症になると体に異常が出るのですか?」「認知症になると言葉が出なくなるのですか?」「ひいおばあちゃんが認知症になってしまったけど治りますか?」等私たちが「はっ」とさせられるような素直で率直な質問がどんどん出てきたので、子どもたちが関心を寄せてくれていること、内容を理解してくれていることがひしひしと伝わった。

アンケートでも「僕は、自分がかもしも急いでいる時でも、お年寄りを一人ぼっちにしたら絶対にだめだなと思

いました。お年寄りの気持ちも考えて行動するようにします」「何回も同じことを聞かれてもすぐに怒ったりしないで「大丈夫」とかやさしく言ってあげる」という答えがあり、それを見てとても温かい気持ちになり、講座を開催して良かったと感じた。そして養成講座の開催後の交流会では、児童の手にはオレンジリングがはめられていて「それは何ですか?」と職員が尋ねると「おばあちゃんの味方」「認知症のサポーター」と子どもたちが、すかさず答えてくれた。

またグループホームご入居者と接する際にも、お行儀の良さや親切的な声かけ、やさしく接してくれている姿を見ると、やはり事前学習の影響は大きいと実感することができた。

職員には役者、司会進行役、講師役とそれぞれの持ち味を生かし、グループホーム職員のチームプレイの賜物であること、他にも講座の依頼があれば出張したいという意欲も出てきた。交流会をすることでその後も楽しかったからと児童たちが、放課後や休日にグループホームへ気軽に遊びにきてくれるようになっている。

今後の展開

毎日、認知症高齢者と生活を共にしているグループホーム職員だからこそできる内容であり、地域の社会資源のひとつとして、今後も広めていく活動をしていきたい。

ナイスライフでは他にも伊勢田保育園との合同散歩や交流、認知症相談窓口の設置を実施しており、なごみの里では、地域住民が誰でもつどえる「なごみカフェ」を実施している。

主な経費や財源及び人員など
・取り組みに係わった職員数 9名 (職種等：介護職、ボランティア)
※法人全体の事業規模 (平成25年度決算の事業活動収入) 1,467,792,273円



グループホーム入居者と児童の交流



認知症サポーター養成講座の様子



養成講座での寸劇